

新規就農先輩の軌跡 (NO.1)

<p>新規就農者の素顔</p>  <p>氏名：植田勝也（うえだかつや） 住所：神戸市北区長尾町上津 年齢：35歳</p>	<p>農業経営の状況（現在）</p> <p>農地：水田 80a（親戚から借地） 施設：ビニールハウス 22a （本ほ 15a, 育苗ほ 7a） 経営内容：いちご(促成栽培)・水稲 労働力：本人, 母親, 雇用 2名 販売先：自家直売所, JA直売所, 量販店, レストラン</p>  <p>10月下旬の栽培状況</p>
<p>就農から現在まで</p> <p>2003年 離職</p> <p>2004年 認定就農者</p> <p>2004～6年 千葉県のいちご農家で 17ヶ月間農業研修</p> <p>2006年 就農（いちご栽培開始）</p> <p>2008年 ハウス増棟, 認定農業者</p> <p>2009年 現在に至る</p>	<p>就農で良かった点、苦労した点</p> <p>○良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で経営方針を立て、自分で実行することが出来る。 ・自分の作ったいちごが消費者に喜んでもらえる。 ・地域の先輩農家からの暖かい支援を得ることができた。 <p>○苦労した点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全てが自己責任 ・栽培技術の修得やほ場環境の改善に時間がかかった。
<p>農業をめざした動機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外留学時に、外国と比較した日本農業の諸問題、特に食の安全安心に強い関心を持った。 ・親戚にいちご農家があり、いちご栽培に興味を持った。 ・別の親戚から農地を借りられることとなり、自ら安全安心ないちご栽培を行うことを目指し、就農を決意した。 	<p>後輩へ贈る言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いきなり就農せず、事前に研修で農業について学び、自分の農業への適性を判断する方が良い。 ・就農場所は十分に吟味する。（栽培環境・販売方法・住民の地域性等） ・地域にとけ込む努力はとても大事。社会活動やお付き合いは積極的に行うようにする。